EdTech 導入補助金2021

令和2年度3次補正 学びと社会の連携促進事業
（先端的教育用ソフトウェア導入実証事業）費補助金

効果報告レポート

【事業者名】
NPO法人教室ICT実践会

【ツール名】
おさらい先生

【ツールの機能分類】
デジタル教材（国語、算数/数学）

基礎トレ

おさらい先生®

2022年2月

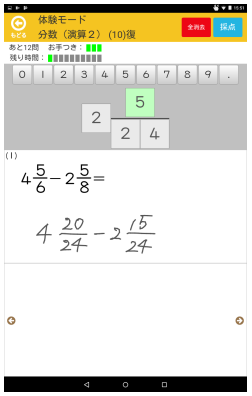
■ EdTech ツールの概要①

「おさらい先生」は基礎トレに絞った教材です。

読解

縦長表示

計算

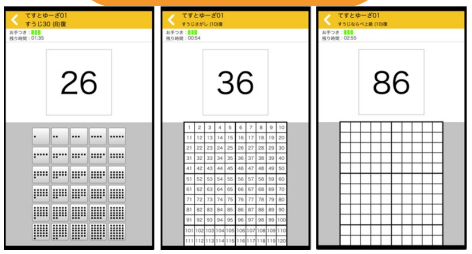


横長表示

プレ教材 ことば

縦長表示

プレ教材 すうじ

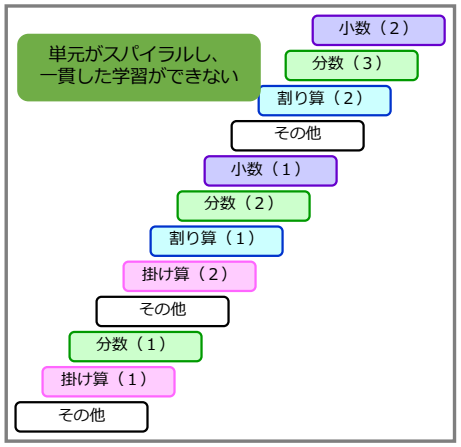


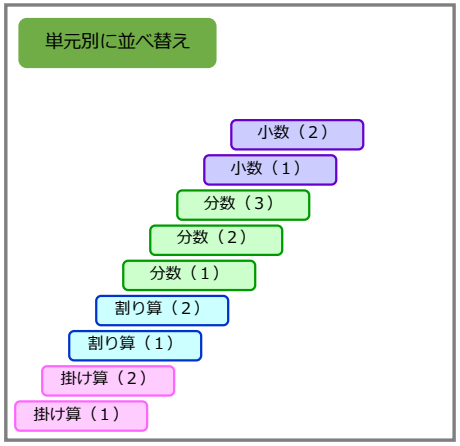
縦長表示

積み上げ教科でリベンジができない、
読解と計算に特化しています。

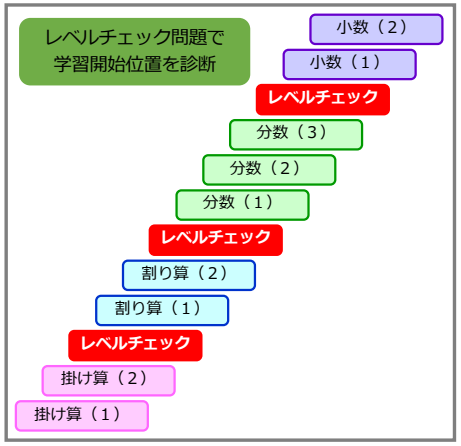
無学年制＋レベルチェック問題で個別最適化学習を実現します。

▼一般的な教材

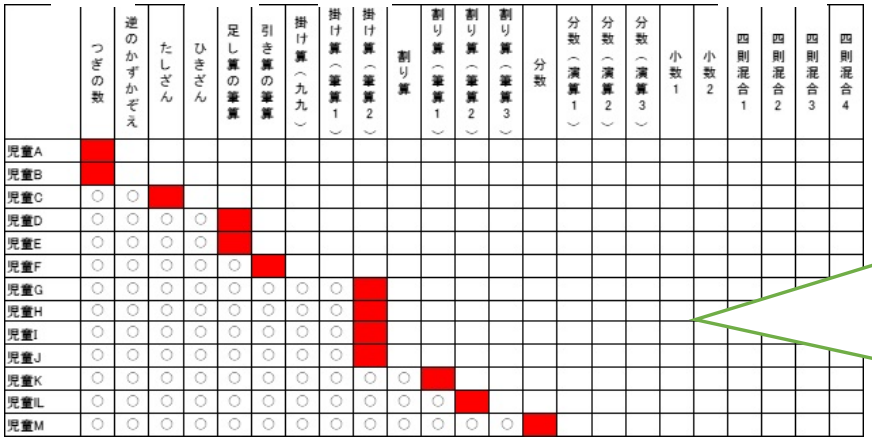




▼おさらい先生



← 小2 ― 小3 ― 小4 →　　← 無学年 →　　← 無学年＋レベルチェック →



	つぎの数	逆のかずかぞえ	たしざん	ひきざん	足し算の筆算	引き算の筆算	掛け算（九九）	掛け算（筆算1）	掛け算（筆算2）	割り算	割り算（筆算1）	割り算（筆算2）	割り算（筆算3）	分数	分数（演算1）	分数（演算2）	分数（演算3）	小数1	小数2	四則混合1	四則混合2	四則混合3	四則混合4
児童A	■																						
児童B	■																						
児童C	○	○	■																				
児童D	○	○	○	○	■																		
児童E	○	○	○	○	■																		
児童F	○	○	○	○	○	■																	
児童G	○	○	○	○	○	○	○	○	■														
児童H	○	○	○	○	○	○	○	○	■														
児童I	○	○	○	○	○	○	○	○	■														
児童J	○	○	○	○	○	○	○	○	■														
児童K	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	■												
児童L	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	■											
児童M	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	■									

レベルチェック問題による学習開始位置

(2016年11月神奈川県A小学校小4の学習結果による)

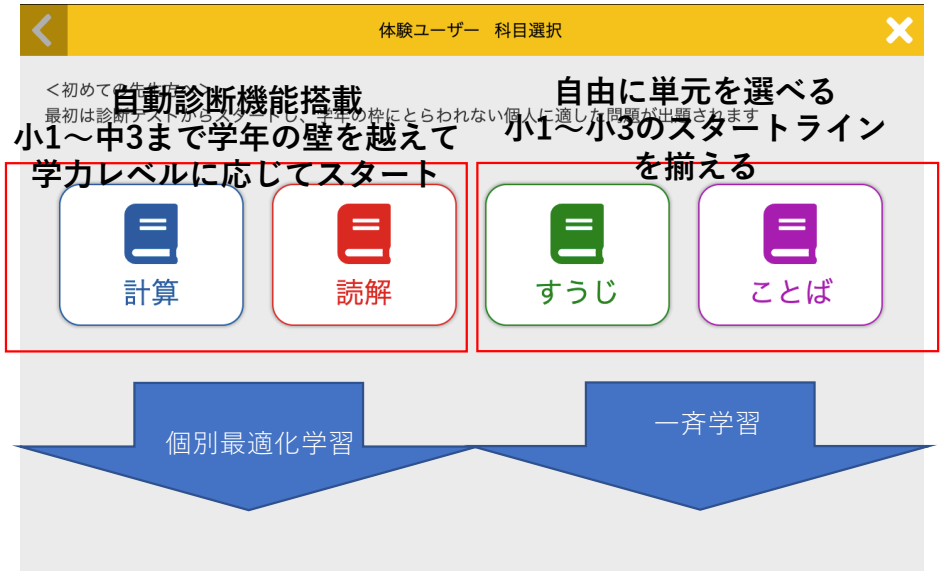
先生も生徒も、本当にできないところが把握できていません。多くの場合、思っているよりもずっと前の単元での演習が不十分なのです。

■ 学校等教育機関の抱える課題

「おさらい先生」の強みによって解決・改善したい導入先の課題

児童・生徒が 抱える課題	**●バラバラな学力のスタートライン** 小1入学時点で既に学力の二極化は起きている **●積上げ教科では致命的な、できないままの進級・卒業** 現行の仕組みでは学年の壁を越えてやり直せない
教職員が 抱える課題	**●GIGAスクール対応** ただでさえ時間がないのに、新しいことに取り組む負荷が大きい。 先生が楽になるはずのICTで余計に面倒くさくなる。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例



一日の流れ

- 朝学習（週数回・一斉）
- 授業（国語・算数）
- 休み時間（希望者）　※端末の利用を許可している場合
- 放課後（希望者）　※端末の利用を許可している場合

ICTでもツールと違って教材は「いつ使うか」が実は難しい。
特に個別最適化学習はカリキュラム外の扱いになるため、隙間時間を積極的に活用していく必要がある。どの学校でも「朝の読書の時間」「計算練習（百マス計算など）」の時間は確保しているため、そちらを紙からデジタルにリプレイスすることを提案した。
「すうじ」「ことば」の教科は一斉学習に向いているため、主に低学年の授業時間内でのクラスのレベル揃えに利用いただいた。こちらの教材はビジュアル豊富で達成感も得やすいため、希望する子ども達は自由時間でも自主的に学習を継続した。

■ 補助事業において実施したサポート内容

＜サポートはほぼ電話・電子メール・オンラインで実施、一部遠隔地は出張サポート＞

事務局

教員向け研修デモ授業

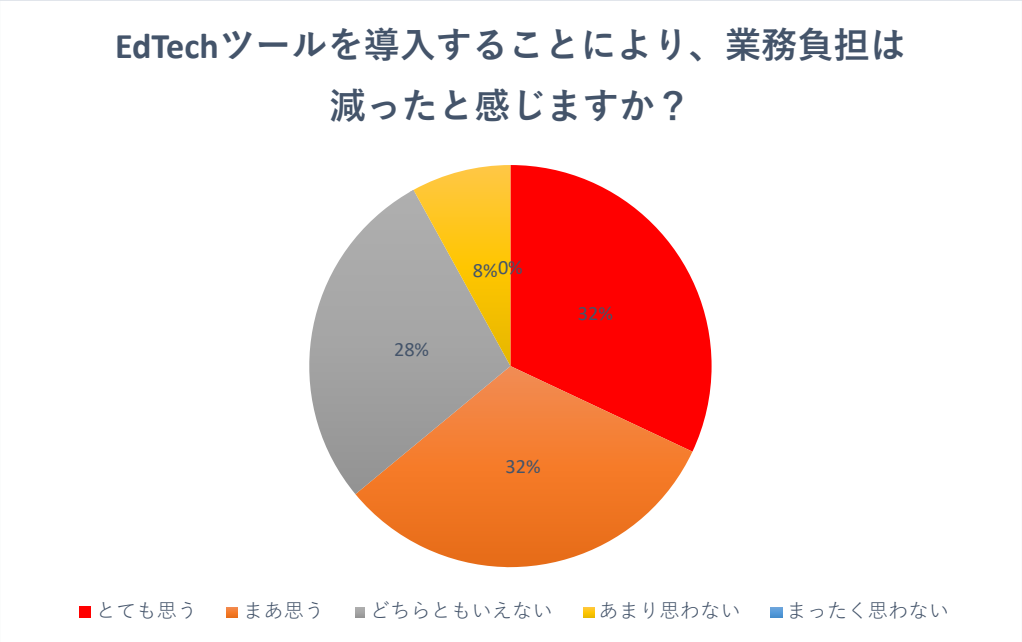
導入時	**●シングルサインオン対応** おおむねスムーズに導入できた **●保護者向け説明資料作成** 学校側の要望で今回導入するEdTechツールを家庭に説明する資料を作成し、配布いただいた **●セットアップサポート（出張）** 手動でアカウント登録し、開通までサポート
運用時	**●教員向け研修（出張）** 教材説明とデモ授業を行い、質疑応答。 **●利用促進** 学習データを分析し、導入したのに利用されていない学校には電話・メールでコンタクトし、原因をヒアリングして解消に努めた **●成功事例の共有** 学習データを分析し、よく著しい成果を上げている学校の先生とオンライン会議で情報交換し、モデル校として他の学校にも事例を共有した **●トラブル対応** ログイン周りの対応（後述）以外はほぼなし。

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

自治体名	学校数	ユーザー数
鹿児島県錦江町	2	155
鹿児島県徳之島町	2	179
山口県下関市	1	8
東京都荒川区	4	1,270
北海道登別市	13	2,925
栃木県国分寺特別支援学校	3	266
計	25	4,803

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察①

教職員の働き方に及ぼした変化



回答者数n=25人

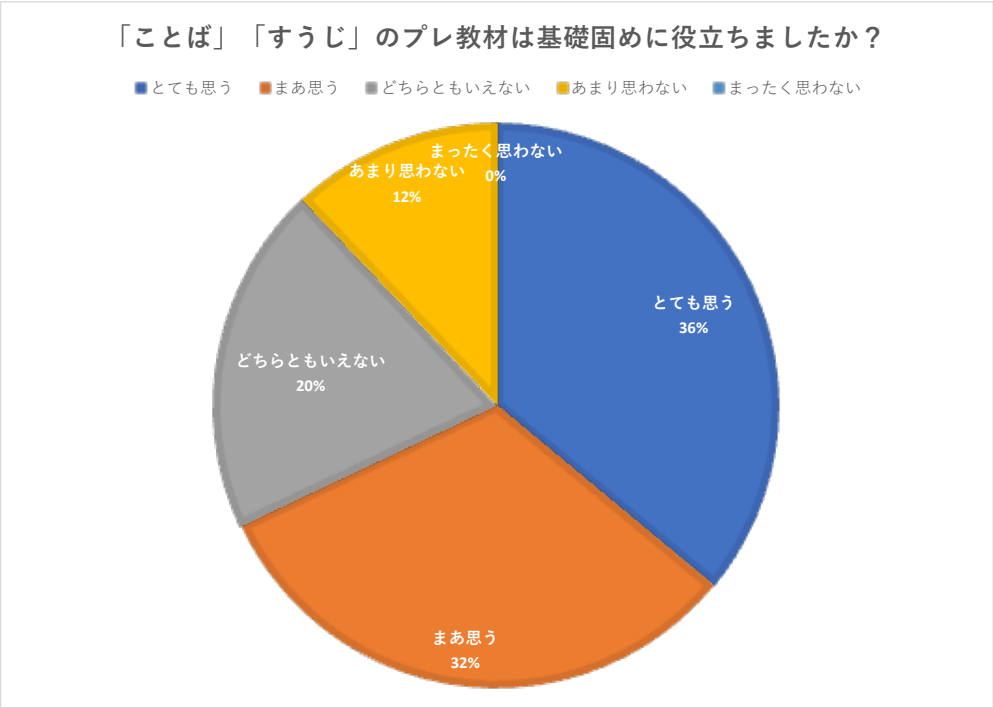
教職員が抱える課題	**●GIGAスクール対応** ただでさえ時間がないのに、新しいことに取り組む負荷が大きい。 先生が楽になるはずのICTで余計に面倒くさくなる。

・今回の事業に限らず、EdTechツールの中でもドリル系教材は印刷・採点不要など負荷軽減メリットは出やすい。

・本ツールは操作習熟の必要もなく、子どもたちに渡せばすぐ学習できる点が評価された。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察②

児童・生徒の学力に及ぼした変化



回答者数n=25人

児童・生徒が抱える課題	**●バラバラな学力のスタートライン** 小1入学時点で既に学力の二極化は起きている

・本ツールの教科「ことば」「すうじ」は学力のスタートライン揃えのために開発された教材である。
非常によく利用され、9～1月末までの期間に
・ことば：15,919ユニット
・すうじ：11,612ユニット
の総学習履歴が記録された。
※ユニットは本ツールの学習単位で、各単元は十個程度のユニットで構成され、各ユニットの中には10問の問題が入っている。

また、アンケートでも低学年の担任・特殊学級の先生を中心に評価が高かった。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察③

児童・生徒の学力に及ぼした変化（個別最適化学習の場合）

児童・生徒が 抱える課題②	**積上げ教科では致命的な、できないままの進級・卒業** 現行の仕組みでは学年の壁を越えてやり直せない

・本ツールの教科「計算」「読解」は出来ないところまで戻ってやり直せる個別最適化学習教材である。
児童生徒の自習に利用され、9～1月末までの期間に
・計算：11,056ユニット
・読解：3,296ユニット
の総学習履歴が記録された。
※ユニットは本ツールの学習単位で、各単元は十個程度のユニットで構成され、各ユニットの中には計算10～20問以上、読解本文と数問の問題が入っている。

読解の学習数が計算より低いのは、本事業以外でも見られる傾向である。計算小テストは学校に根付いた習慣なのでデジタルへのリプレイスが容易なのだが、読解の小テストを実施しているところはほぼないので、新たに時間を確保してもらう必要があるためである。（そのため、学習者の自習に任せているところが多い）

■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

児童・生徒のコメント	・自分で思っているよりできてなかったので驚いた ・友だちとどこまで進んだか勝負できて楽しい ・制限時間があるのでむずかしかった ・読解はどんどん先に進みたくなった
教員のコメント	・子どもに渡すと説明なしですぐ始められた ・個別学習は隙間学習に向いていると思う ・持ち帰りでやらせたかった ・Googleで入れるのでよかった

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

導入における課題と改善策	・Google for Educationによるシングルサインオン導入校が多かったため、個人情報のやりとりもなくスムーズに導入できた。 ・シングルサインオン対応していない導入校は、担当の先生にアカウント作成いただいたが、こちらはエクセルから名簿取り込みなどに対応しているため、特に課題は生じなかった。
運用における課題と改善策	・問合せサポート内容はほぼログインに関するもので、どれもブラウザのタブを長期間開きっぱなしにすることで反応しなくなるのが原因で、ブラウザを立ち上げ直すと解決した。 →あまりにこの内容が多かったので、ログイン画面に注意書きとして記載することにした。

■ 会社概要

損　益　計　算　書

自　令和 2年 4月 1日
至　令和 3年 3月31日

NPO法人教室ICT実践会　　（単位：　円）

科　目	金　額	
【売上高】		
売　上　高	9, 438, 128	
売　上　高　合　計		9, 438, 128
売上総利益金額		9, 438, 128
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計		50, 579, 859
営業損失金額		41, 141, 731
【営業外収益】		
受取利息	54	
雑収入	50, 127, 002	
営業外収益合計		50, 127, 056
【営業外費用】		
雑損失	4, 193, 247	
営業外費用合計		4, 193, 247
経常利益金額		4, 792, 078
税引前当期純利益金額		4, 792, 078
法人税等		559, 507
当期純利益金額		4, 232, 571

問い合わせ先		
	ウェブサイト	https://www.kictj.jp/
	メールアドレス	info@kictj.jp
	代表番号	03-3513-6844

● 通常は販社を通じての販売のためエリアが限られたりこちらからのアプローチが届かなかったりするのだが、EdTech事業者に採択リストに載せていただいた結果、教委・学校側から声をかけていただけた。我々のような少人数で運営している団体にはとてもありがたい。

●同様に、離島や山間部、特殊支援学校といった今まで接点のなかったユーザーの方に利用いただく機会が生じたのもありがたい。通常だと遠隔地はサポートしづらいがコロナ禍でオンライン会議などが普及したこともあり、無理に出張しなくてもサポートできる体制を整えることができた。